様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年　6 月　6 日現在

機関番号：51101
研究種目：若手研究(B)
研究期間：平成 23 年度～平成 24 年度
課題番号：23730334
研究課題名（和文）両大戦間期イングランド銀行の対外政策に関する研究 - エル・サルバドル準備銀行の創設

研究課題名（英文）A Study on the External Policy of the Bank of England during the Inter-War Period: the Creation of the Reserve Bank of El Salvador

研究代表者
佐藤　純（八戸工業高等専門学校　准教授）30413719

研究成果の概要（和文）：1930 年代におけるイングランド銀行の対外政策に関しては、その影響力が及んだ範囲の大きさゆえに研究者の関心を集めてきた。これに関して先行研究は、同行がスターリング圏(sterling area)の安定と拡大を目的として、帝国内外の諸国にアドバイザーを派遣し中央銀行の創設を実現していったことは明らかにしているが、中央銀行創設に至るプロセスや、果たして中央銀行の創設によって上述の目的は達成されたのか否か、以上の点については十分には明らかにしてこなかった。本研究では、これらの点を 1934 年におけるエル・サルバドル準備銀行の創設に関する事例に即して明らかにした。

研究成果の概要（英文）: Many researchers have been paying attention to the external policy of the Bank of England in the 1930s because of its vast sphere of influence. They revealed that a lot of advisors dispatched from the Bank were successful in creating central banks in various countries in order to maintain and even extend to the sterling area. However they did not succeed in revealing the process of creating central banks and its actual effectiveness. In this research these were partially revealed by a case study of the creation of the Reserve Bank of El Salvador.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：経済史
科研費の分科・細目：経済史
キーワード：イングランド銀行、スターリング圏、英国金融使節団、中央銀行

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

１．研究開始当初の背景

両大戦間期イングランド銀行の対外政策に関する研究はいくつか存在するが、プランプターの研究が最も包括的かつ詳細なものとして挙げられる(A.F.W.Plumptre, Central Banking in the British Dominions,1940)。プランプターは、自治領におけるイングランド銀行による中央銀行創設運動を分析する中で、かかる同行の政策には、スターリング圏の安定と拡大という意図があったことを示している。

しかし、この研究を含め従来の研究は、イングランド銀行の「意図」を明らかにしてはいるが、中央銀行創設に至るプロセスおよび「結果」については十分に検討してこなかった。近年になってようやく、歴史家ケインによってこれらの点の重要性が指摘されカナダに関する研究が発表されている(P.J.Cain, “Gentlemanly Imperialism at work”,Economic History Review,1996)。

既存の研究の現状に新生面を開くには、これまで十分に明らかにされてこなかった以上の点を明らかにする必要がある。具体的には、アドバイザーの活動に焦点を当てた研究が必要ではないかと考えた。なお、かかる着想は、プランプターが上述の著書の序文に記した「本書は人間への関心が欠けている」という記述からえたものである。

２．研究の目的

両大戦間期、とりわけ 1930 年代におけるイングランド銀行の対外政策に関しては、その影響力と範囲の大きさゆえに研究者の関心を集め、多くの研究がなされてきたことは先述の通りである。

これに関して先行研究は、同行がスターリング圏の安定と拡大を目的として、帝国内外の諸国にアドバイザーを派遣し中央銀行の創設を実現していったことは明らかにしているが、①中央銀行創設に至るプロセスや、②果たして中央銀行の創設によって上述の目的は達成されたのか否か、以上の点については十分には明らかにしてこなかった。

したがって、本研究では、これらの点を究明すべく 1934 年におけるエル・サルバドル準備銀行(Reserve Bank of El Salvador)の創設に関する事例研究を行う。具体的には、イングランド銀行所蔵の未公刊史料を用いてアドバイザーの活動を追跡していく中で、①同行創設のプロセスと、②それによってエル・サルバドルはスターリング圏に包摂されたのか否か、以上の点について明らかにする。

最終的には、本研究と、これまで申請者が行ってきた事例研究を踏まえて、両大戦間期イングランド銀行の対外政策の全体像を明らかにし、イギリス帝国経済史研究や世界経済史研究、さらには国際政治経済学研究に寄与することが目的となる。

３．研究の方法

本研究では、イングランド銀行文書館(TheBank of England Archive)に所蔵されている史料(F.F.J.Powell Paper)を用いてパウエルの活動を追跡していく中で、中央銀行創設に至るプロセスおよび結果について明らかにしていく。

なお、同文書にはパウエルとイングランド銀行の関係者、エル・サルバドルの大統領、政治家、そして大手商業銀行との間で交わされた手紙、報告書、電報、そしてメモ等の臨場感あふれる史料が収録されている。この史料を読み込むことによって、多数の新事実が発掘され、停滞した研究状況を一歩推し進めることができた。

本研究遂行上、イングランド銀行文書館での史料収集は必要不可欠な作業となるので、同館のアーキビスト(Archivist,公文書保管人)との関係は重要である。大学院に在籍中からの研究活動の中で、アーキビストと十分な信頼関係を培ってきたので、彼らから史料の閲覧・収集を効率的に行うために必要な支援を十分にえることができた。したがて、本研究は、未公刊史料を用いた新事実の発見を基にした従来の研究とは一線を画すものであるといえる。

一方、本研究の内容に関しては、申請者が学生時代から所属している社会経済史学会や政治経済学・経済史学会の会員から忌憚のない助言を受けることができた。さらに、英米のみならず、オーストラリアやニュージーランドの研究者とも意見交換を行いながら研究を進めたので、本研究は国際的水準の研究になったと考えている。

４．研究成果

従来のイングランド銀行の対外政策に関する研究は、同行の政策的意図にのみ注目し、同行から派遣された金融使節団が派遣された諸国において具体的にいかなる交渉・活動を展開したのかについては十分に明らかにしてこなかった。

したがって、当時のイギリスの対スターリング圏政策の実際の有効性については不明のままであった。本研究は、エル・サルバドルに関する一事例研究にすぎないが、イングランド銀行文書館が所有する一次史料を読み込むことによって、イングランド銀行の政策意図が十分に貫徹されていなかったことを実証的に明らかにした。以下でより具体的に述べたい。

イングランド銀行から派遣されたパウエル使節団によって創設されたエル・サルバドル準備銀行は、イングランド銀行の意図＝スターリング圏の維持・拡大という役割に資する機関というよりは、現地政策主体、すなわち当時のエル・サルバドルの大統領の政治・経済的目的に資する機関であったことが明らかになった。

したがって、本研究によって、1930 年代イングランド銀行の対スターリング政策は、シティ(City of London)の金融利害が貫徹されたものであるという従来の評価に対して、一定の修正を加え、先行研究にはない新しい議論を提示することができた。

なお、これらの成果は以下に示した論文、学会発表、そして共著において広く国民に公開することができた。さらに、欧文雑誌における論文発表、そして国際学会における発表によって、広く世界にも研究成果の内容を発信することができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

１、Jun Sato, “The Bank of England Financial Advisory Missions to Latin America during the Great Depression: An Analysis on “Money Doctoring” from the Perspective of the Periphery”, The East Asian Journal of British History, Vol.3, 2013,pp.77-94, Refereed Paper

２、佐藤純「英国金融使節団と 1930 年代大不況下のラテン・アメリカ - エル・サルバドルにおけるパウエル使節団の活動 - 」西洋史研究、新輯第 40 号、2011 年、1－31 頁、査読有

〔学会発表〕（計 6 件）

１、佐藤純「モンタギュー・ノーマン卿と両大戦間期の世界 - 債務危機下ラテン・アメリカにおける英国金融使節団の活動 - 」ヨーロッパ近現代史若手研究会、2013 年 1 月、東北学院大学

２、佐藤純「英国金融使節団の活動と『異端』の中央銀行の生成 - アルゼンチン中央銀行総支配人プレビッシュの金融制度改革 (1935-38 年)」ラテン・アメリカ政経学会関東部会、2012 年 3 月、日本貿易振興機構アジア経済研究所

３、Jun Sato, “The Bank of England Financial Advisory Missions to Latin America during the Great Depression: From the Perspective of the Periphery”, Asia-Pacific Economic and Business History Conference, February 2012, Canberra

４、佐藤純「The Bank of England Financial Advisory Missions to Latin America」イギリス帝国・コモンウェルス研究会、2012 年 1 月、東北学院大学

５、佐藤純「1930 年代大不況下ラテン・アメリカにおけるイングランド銀行金融使節団の活動 - 「周辺」の視点からの再検討」ラテン・アメリカ政経学会全国大会、2011 年 11 月、京都外国語大学

６、佐藤純「1930 年代におけるイングランド銀行金融使節団の活動 - エル・サルバドル中央銀準備銀行創設に関する事例研究」社会経済史学会全国大会、2011 年 5 月、立教大学

〔図書〕（計 1 件）

１、佐藤純「英国金融使節団と両大戦間期の「グローバリゼーション」 - 1930 年代債務危機下ラテン・アメリカにおける中央銀行創設運動 - 」小原豊志・三瓶弘喜編著『西洋近代における分権的統合　その歴史的課題 - 比較地域統合史研究に向けて - 』東北大学出版会、2013 年、第 8 章、281－327 頁

６．研究組織

(1)研究代表者

佐藤　純（八戸工業高等専門学校・准教授）

研究者番号：30413719

(2)研究分担者

なし（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

なし（　　）

研究者番号：